



英語に親しむ  
2Days

6月29日・30日、カピックセンターで、「世界とつながるイングリッシュキャンプ」が開催されました。これは、市内の小学5・6年生を対象に、英語を使ったコミュニケーション能力の向上などを目的に開催したもの。36人の参加者は外国語指導講師等との英語を使ったレクリエーションなどを通じて、「パスポートのいらない留学体験」を楽しみました。



多彩な声が織り成す  
美しいハーモニー

6月16日、リナシティかのやで、「コーラスフェスティバル」が開催されました。これは市内の合唱グループが一堂に会するイベントで、16団体が参加。各グループは童謡や昭和・平成のヒット曲など46曲を歌い上げました。イベントの最後には、参加者と観客全員による「四季のうた」の合唱が行われ、彩り豊かな歌声が会場内に響き渡りました。



霧島ヶ丘の活性化へ  
南州農場と協定

6月27日、市役所で、南州農場株式会社（南大隅町）と市との立地協定調印式が行われました。これは、同社が「霧島ヶ丘公園活性化プロジェクト」の一環で、園内に「南州農場黒豚ふれあい工房（仮称）」の建設を計画していることによるもの。レストランや直売所のほか、ハムやソーセージなどの加工品製造、体験学習ができる同施設は、来年春頃に開業予定です。



復興に向けて  
芝生を植栽

6月16日、大隅湖特設ステージ周辺で、芝生の植栽が行われました。これは、平成28年の台風第16号により河川が氾濫し、橋や住宅が流されるなど甚大な被害が出た災害を忘れないようにと行われたもの。参加した市民ら約100人は、およそ2,000㎡の敷地に約1万8,000枚の芝生を植えました。当会場では10月19日に復興祭が開催される予定です。



多様な性を理解し  
認め合う社会へ

6月30日、リナシティかのやで、県主催の「LGBT理解講座」が開催されました。LGBTとは、性的少数者（セクシュアルマイノリティ）の総称の一つで、レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの頭文字をとった言葉。講座では、当事者自身の苦悩や体験が語られ、参加者は多様な性の在り方について、理解を深めました。



認知症の本人が語る  
貴重な講演

6月29日、リナシティかのやで、「大隅地区認知症セミナー2019」が開催されました。講師を務めたのは、39歳の時に「若年性アルツハイマー型認知症」と診断された丹野智文さん（45歳）。大きな不安を抱えながらも、周りの人の支えを受け、あらゆる工夫をして幸せに生活している丹野さんの前向きな姿勢に、参加者は心を打たれていました。



消費拡大に向けて  
地元産の牛乳をPR

6月6日、市役所で、「父の日に牛乳を贈ろう」キャンペーンが行われました。これは、県酪農業協同組合大隅支所青年女性会議が、市内を中心に生産される牛乳の消費拡大を目的に、父の日（6月16日）を前に毎年実施しているもの。メンバーらは牛乳で乾杯した後、市役所を訪れた市民へ、安全で安心な地元産のおいしい牛乳を配りPRしました。



国体に向けて  
心も体も踊りだす

6月9日、リナシティかのやで、「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」公式ダンスの講習会が開かれました。この講習会では、鹿屋体育大学のダンス部員8人が講師となり、イメージソング「ゆめ～KIBAIYANSE～」に合わせて作られた公式ダンスの振り付けを指導。総勢64人が軽快な曲に合わせてダンスを楽しんでいました。



田植えでつながる  
地域コミュニティ

6月11日、上高隈町で、高隈地区コミュニティ協議会による田植え体験が行われました。当日は、地元の保育園児ら約150人が、泥だらけになりながら一つひとつ丁寧に苗を植えつけました。



差別のない社会へ  
ハンセン病問題啓発パネル展

6月17日～21日、市役所で、「ハンセン病問題に関するパネル展」が開催されました。ハンセン病の差別や星塚敬愛園の歴史を解説するパネル等を通して、多くの人がハンセン病への理解を深めました。



交流しながら  
食の大切さを学ぶ

6月19日、下高隈町の上別府集落で、住民と星幼稚園の園児との交流事業がありました。約90人の園児は田植えを体験した後、高隈産のお米でできたおにぎりを食べ、楽しみながら食と農を学びました。



少年レスリングの  
全国大会へ

6月27日、レスリングクラブ鹿屋レオキッズの選手・監督らが市役所を訪れました。これは、5月に開催された「第33回九州少年少女レスリング選手権大会」で優秀な成績を収め、7月に和歌山県で開催される全国大会への出場を前に行われたもの。永田誠さん（寿小4年・写真左端）は「全国大会でも精一杯頑張りたい」と力強く抱負を語りました。



野生の動物を  
おいしく調理

6月9日、カピックセンターで、「ジビエを使った料理教室」が開催されました。これは、ブラジルの総領事館で腕を振るっていたシェフと一緒にジビエ料理を作るイベント。食材として用意された鹿や猪、キジ、ハクビシンの肉を、様々な方法で調理したジビエ料理を食べた参加者は、その意外なおいしさに驚いていました。